

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

文部科学省「教育課程特例校」制度に基づく教育の実施状況

令和5年7月31日

学校法人細田学園は、中学校、高等学校とも令和4年3月8日付で文部科学省により「教育課程特例校」に指定され、令和4年度より計画に基づく教育を実施しています。

新たな教育プログラムを設置した趣旨

本校では2013年より、現実の社会課題を抽出して分析し、ビジネスの手法を用いて解決法を提案する独自の探究プログラム「リーダー教育」や「未来研究(Think My Future)」を実施してきました。これらのプログラムで生徒が着目する社会課題は、科学・社会・生活基盤を扱う科目で言及される内容であることが多く、また、生徒が自ら発見した課題に取り組みながら、その過程で課題に関連する教科知識を学ぶことで、より本質的で実践的な知識を得ることがわかってきました。

そこで、これら科学・社会・生活基盤を扱う科目を取りまとめ、探究的な新設教科として扱うことで、生徒に主体的に学ぶ機会と、本質的で実践的な知識を得る機会を多く提供できると考えました。

そして、独自の探究プログラムを新しく教科化して取り組むことは、本校の基本方針である「絶対的な学力はもちろんのこと、社会との様々なかかわりの中で主体的に考え、行動できる生徒を育成する」決意の表明でもあります。

教育プログラムの概要

科学・社会・生活基盤を扱う科目を取りまとめて、探究的な新設教科「未来科」を新設し、独自の探究プログラム「FDC: Future Design and Creation」を行っています。独自の探究プログラム FDC は、

- ①社会課題を自ら抽出する、
- ②ビジネス手法を用いながら社会課題を調査・分析する、
- ③分析した課題について解決法を提案する、
- ④学内外のファシリテータ監修のもとで課題解決に向けた提案を実践する、
- ⑤実践の効果を評価し国内外に周知する、

の一連の活動から成り、学年に応じた形式で継続的に実施しています。

教育プログラムの実施時数

①高等学校：設置・削減した教科及び単位数

(単位数)	設置した教科	削減した教科				
	未 来	公民	理科	家庭	情報	総合的な探究の時間
高校1年	3	1	1			1
高校2年	3			1	1	1

②中学校：新設・削減した教科及び授業時数

(授業時数)	設置した教科	削減した教科		
	未 来	社会	理科	特別活動
中学2年	105	35	35	35
中学3年	105	35	35	35

教育プログラムを受けた生徒数

令和4年度（令和4年5月1日時点）

①高等学校：

教科名	単位数	一貫部		高等部	
		高1	高2	高1	高2
未来探究Ⅰ	3	22	—	—	—
未来創造Ⅰ	3	—	—	321	—
未来総合	3	—	—	—	508

②中学校：

教科名	授業時数	中2	中3
未来	105	31	41

年間活動スケジュール（令和4年度）

高等学校、中学校ともに以下の年間スケジュールで活動を行いました。

- 4月14日 全体キックオフ
- 4月～5月 課題分析技法, 調査法, 発表法, 講義パート (削減教科の一部内容を含む)
- 6月～(3月) ゼミ別の活動
- 10月 中間発表
- 11月 選考会<予選>
- 1月 選考会<最終>
- 2月13日 校内発表会「FDC Competition Award 2023」保護者・一般公開あり

活動分野と参加した生徒数及びテーマ（抜粋）

生徒の興味分野ごとにわかれ、ゼミ形式で指導教員がつきます。生徒は3～4名のチームを編成し、チームごとに年次計画に基づいて活動を行いました。

①高等学校

分野	活動人数（人）		テーマ（一部のみ抜粋）
	高1	高2	
教育	10	28	日本の教育格差に 日本の職場と政界における男女格差
技術・環境	41	71	海洋汚染・生活処理水について 小規模風力発電の開発 絶滅危惧動物の現状と保護政策について 過疎地域における観光産業の振興について 歴史を学べるゲーム制作プログラミング
社会・地域	47	100	バナナの葉で抗菌作用のあるハンドクリームを作る 絶滅危機の方言について ライスバーガーで米の廃棄量削減・海外へ輸出 SDGs×映画 川越の地域活性・PR
文学・哲学	46	75	コロナ禍の学校生活 世界における貧困とそれに伴う教育格差について 高齢者の利用する公共交通機関 AIと人間の共存はどのように行うべきか？ 本能寺の変にまつわる創作 熊谷空襲について
家庭・経済	47	35	家庭系食品ロスの削減 勉強時間を管理する ヤングケアラーの存在を周知する 犬、猫の殺処分を減らす 団らん・優しいキッチン空間の作成
SDGs・格差	39	41	プラスチックによる深刻な海洋汚染 スポーツにおける人種差別 日本の投票率を改善させたい
自然科学	44	69	生物の構造を応用した抗菌作用を持つ商品の開発 サボテンの性質を生かして水不足解消

			これからのウミガメを守るためにできること マイクロプラスチック問題 電気を使わなくても快適に過ごせる家を考える
スポーツ 食文化	45	86	聴覚障害者の方々の生活を サポートする商品開発 スポーツが及ぼす環境問題 身体が不自由な方々の 電車利用を改善する アレルギーのある子を笑顔にしよう！ フードロスのことを詳しくかつ分かりやすく伝える

②中学校

分野	活動人数（人）		テーマ（一部のみ抜粋）
	中2	中3	
医療	4	5	海難事故を防ぐには
教育	4	4	未就学児童との関わり、コミュニケーション
芸術	2	4	中高生が利用したい公園プラン
工学	1	5	素材の力を見直す
社会科学	0	4	勉強ができる公園を作る
歴史	2	1	江戸城と富士山 ～日本の象徴～
人文科学	8	9	緊張を少しでもなくすためには？ 動物の殺処分をなくすには 日本の食文化を世界へ広げたい
農学	3	0	廃棄食材のレシピ作り
理学	4	4	河川をきれいにしたい～水質調査
動物	3	5	動物の保護活動

主な成果

① 校内の活動

A) 校内発表会（中高）「FDC Competition Award 2023」令和5年2月13日

No.	チーム	「発表題目」と概要	受賞
発表1	中学①	「さくら猫プロジェクト」	
発表2	中学②	「素材のちから」	優秀賞
発表3	高1/Bゼミ	「バナナの葉 ハンドクリーム」 アフリカの「手の衛生問題」を解決して感染症を減らしたい。抗菌作用を持つ地産バナナの葉を活用し、ハンドクリームを作る活動中。現在は一次試作済、課題の抽出と抗菌作用があることを確認した。	優秀賞
発表4	高2/Bゼミ	「SDGs映画」 日常生活の些細なことが環境問題につながっていると意識できる映画を製作中。企画・シナリオ・撮影・編集。これを観た人に行動の変化を促したい。	
発表5	高2/Cゼミ	「外へ出よう チーム・カバディ」 コロナ禍で外へ出る機会が減ってしまった。簡単な道具とわずかなスペースがあればできる「カバディ」を細田学園流にアレンジして、地域の子供たちへ普及活動中。	特別賞
発表6	高2/Fゼミ	「絶滅危機方言しまくとぅば」 絶滅危機方言があることを知って欲しい。沖縄のNPOに協力を依頼し、昔話「ももたろう」「3匹のこぶた」の吹き替えアニメを制作してyoutubeで公開。教育コンテンツとして近隣中学校への動画配信も実施中。	最優秀賞
発表7	高2/Fゼミ	「フードロス解決ライスバーガー」 日本のコメを使ったライスバーガーレシピを企業と考案。①国内摂取量を増やす、②海外で好まれるバーガーを展開してフードロスを解決したい。	

B) 校内発表会（高校）「FDC Shorts 2023」（動画コンテスト）令和5年2月13日

No.	チーム	「発表題目」と概要	受賞
動画1	高1/Cゼミ	猫保護	特別賞
動画2	高1/Gゼミ	蟬の羽と抗菌製品	特別賞
動画3	高2/Bゼミ	環境問題映画 “Youthful Days”	特別賞
動画4	高2/Bゼミ	映画『借りぐらしのアリエッティ』から知見を深める	特別賞
動画5	高2/Bゼミ	川越PR動画	特別賞
動画6	高2/Cゼミ	カバディ	特別賞

C) 校内発表会（中学校）「卒業発表会」令和5年3月11日

【写真】「FDC Competition Award 2023」の様子



【写真】「FDC Shorts 2023」(動画コンテスト)の応募作品



【写真】「卒業発表会」の様子



② 校外の活動・受賞（令和4年度分）

- ・ Life is Tech! Lesson contest SDGs 問題解決部門 最優秀賞
「日本在住の外国人を助ける「やさしい」日本語」
高等学校2年／戸井田幸耀
- ・ 全国高校生プレゼン甲子園 関東ブロックベスト3
「カバディを広める」
高等学校2年／飯島空，西村颯真，中静大貴，安松隼人，遠藤響，井上航佑
- ・ 中高生探究コンテスト セミファイナリスト（全国ベスト30）
「しまくとぅばの継承」
高等学校2年／若泉琴音，淵上菜々美，秋元海音，新井心彩，紙岡英跡，坂井築
- ・ 第21回「城の自由研究コンテスト」佳作
「江戸城と富士山～その関係性を3つの観点から考える」
中学校2年／鞠夏希，佐々木友愛，中学校3年／高井終輔

学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

高等学校ホームページのトップページ「学校自己評価」に包括されています。

高等学校ホームページ <https://www.hosodagakuen.jp>

参考：令和3年度版 https://www.hosodagakuen.jp/images/pdf/2023_evaluation.pdf

(令和4年度分は2023年8月掲載予定。)

特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

「計画通り実施できている」

(2) 実施状況に関する特記事項

特になし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

「実施している」

ホームページでの報告及び校内発表会「FDC Competition Award」の保護者公開

実施の効果及び課題

上記の活動を一年間通じて実施したことで、以下のような点が明らかになりました。

- ① 生徒が自ら発見した課題に取り組みながら、その過程で課題に関連する教科知識を学ぶことは、意欲的な先取りの学習につながる
- ② 生徒が自ら発見した課題の解決に挑む際に、企業／大学／地域など学校外の大人への（知識、機会、経験などの）援助要請を自発的に行うこと
- ③ 生徒が自ら行動した結果として成果の有無を「自分ごと」と捉える傾向が強くなり、うまくいった経験も、うまくいかなかった経験も次の活動意欲の向上につながる
- ④ 指導教員も興味・得意分野ごとに担当を割り振ったことで、教員から生徒への探究活動サポートの意欲も高かったこと

生徒が自ら発見した課題に取り組みながら、その過程で課題に関連する教科知識を学ぶことが、より本質的で実践的な知識の獲得につながるようになりました。次年度は、活動内容のブラッシュアップに加えて、この教育プログラムが最高学年に所属する生徒の進路選択にどのような影響を与えたのか、定量的な観測を実施したいと考えています。